

ロシア語における指小語について

On Diminutives in Russian

スリュウサレーヴァ・エレナ

SLYUSAREVA Elena

Abstract

The primary resources in Russian for conveying emotional and expressive nuances of the language are intonation and diminutives. Russian is known as a language with rich morphology and an elaborated diminutive system. Researchers such as Wierzbicka (1985) claim that diminutives are a typical marker of Russian emotionality.

Diminutives are a special form of words derived with the aid of diminutive suffixes, which give the words the additional meanings of smallness, irony, tenderness, and so on.

The present work is devoted to the formation of diminutives and in particular to their expressive function.

Keywords : 指小語、ロシア語、指小接尾辞

0. はじめに

多くの言語において指小語の形成は極めて生産的である。たとえば、オランダ語、ドイツ語、フィンランド語、スペイン語、セルビア語、ロシア語では指小語がほとんど全ての名詞から形成される。さらにまたスペイン語、ロシア語、セルビア語では形容詞や副詞からも作られる (Kempe etc. 2007)。その事実は、指小語の用法が「小さい」の意味を伝えるための意味論的な働きだけではなく、主として「愛情」を表現するための実践的なコミュニケーション機能を持つことを示している。

(1) <u>元の語</u>	<u>指小形容詞</u>	<u>指小語の意味</u>
ветер	ветерок	弱い風 + Dim. ⁽¹⁾
[veter]	[veterok]	
двор	дворик	小さい庭 + Dim.
[dvor]	[dvorik]	

また、指小語に関して、Wierzbicka (1985, p.166) は次のように述べている。“The central place of warmth, of affection, in Slavic as well as in Mediterranean cultures is reflected, among other things, in the rich systems of diminutives (involving not only nouns, but also adjectives and adverbs)” (地中海の文化と同様にスラブ文化では暖かさや愛情の中心的な場所は、とりわけ、指小語の豊富なシステムの中に、反映されている。それは名詞だけではなく、形容詞や副詞にかかわるシステムである。)

1. ロシア語における様々な品詞から形成される指小語

ロシア語における指小語は表現の最も重要な手段である。その点でロシア語は、英語を含む他の多くの言語と基本的に異なる。Bratus (1969, p.2) によると、英語では一般的に使用される指小語の数はほとんど十数個かそこらを超えることはない。一方、ロシア語では、最も一般的に使用される指小語の数は約25,000であり、1,000以上の名詞や形容詞から指小語を形成することが可能である。

ロシア語は指小接尾辞による語形成が発達していることが知られている。指小接尾辞は様々な品詞に付くことができるが、ロシア語に最も特徴的なのは、名詞や形容詞の指小語を作る場合である。ロシア語の指小名詞や指小形容詞を構成する指小接尾辞は基本的に指示対象の大きさ・量・程度などが小さいことを表すが、同時に肯定的あるいは否定的な評価を与える場合が多く、主に肯定的な評価を与えるものを「指小・表愛接尾辞」⁽²⁾、反対に主に否定的な評価を与えるものを「指小・表卑接尾辞」⁽³⁾と呼ぶ。

Bratus (1969, pp. 42-43) によると、形容詞に付加された指小接尾辞は元の語に様々な感情的なニュアンスを付与することができる。例えば、次の(2)は指小接尾辞「-оват」が示す「質の低い程度の評価」である指小形容詞の例である：

(2) 元の語	指小形容詞	指小形容詞の意味
хитрый	хитроватый	悪賢い + Dim.
[hitryi]	[hitrovatyi]	

その他に、指小接尾辞「-еньк」が表す「愛、優しさ、思いやり、そして喜び」の感情表現の例として(3)がある。

(3) родной	родненький	愛らしい + Dim.
[rodnoi]	[rodnen'kii]	
милый	миленький	可愛い + Dim.
[milyi]	[milen'kii]	

чудный	чудненький	素晴らしい + Dim.
[chudnyi]	[chudnen'kii]	

(3)と、同じ指小接尾辞が「軽蔑、憎悪と蔑視」という評価を表す場合(4)がある。

(4) плохой	плохонький	悪い + Dim.
[plohoi]	[plohon'kii]	
дешевый	дешевенький	安い + Dim.
[deshyovyi]	[desheven'kii]	
поганный	поганенький	汚い + Dim.
[poganyi]	[poganen'kii]	

(5)は実際の談話から取った例である。

(5) Я знаю, что денежки небольшие платили студентам.⁽⁴⁾

Ya znayu, chto denezki nebolshie platili studentam.

I know, that money(+dim) small (they) paid to students.

学生達に対してちょっとした小銭が支払われたのを知っている。

(5)は2011年12月にロシアのモスクワで行われた「公正な選挙のために」をスローガンにした抗議行動の参加者について、全国向けテレビ中継放送でロシアのプーチン首相が行った発言の一部である。「денежки」([denezki], 「ちょっとした小銭」)は元の語である名詞«деньги»([den'gi], 「金」)がら形成された指小語である。指小語«денежки»([denezki], 「ちょっとした小銭」)は抗議行動参加者である学生に対する首相の批判的な態度を表している。

その他の品詞(動詞、副詞、不変化詞、間投詞、代名詞)から指小語が形成されることがある。しかし、その時に、「小さい」の意味的な特性がないことは感情的な要素が原因である可能性がある。

(6) 動詞 :	спать	спатеньки	寝る + Dim.
	[spat]	[spatenki]	
副詞 :	хорошо	хорошенько	よく + Dim.
	[horosho]	[horoshen'ko]	

ロシア語における指小語について

不変化詞：	a	аюшки	何+Dim.
	[a]	[ayushki]	
	нет	нетушки	いいえ+Dim.
	[net]	[netushki]	

表1 ロシア語における名詞の生産的な指小接尾辞⁵⁾

男性名詞	女性名詞	中性名詞
-ik, -ok/-ek (-onok/-yonok) 例：kot-ik “cat-Dim” kot-yonok “baby cat”	-k (-ichk-, -on'k-/-en'k-, -echk-/ochk-, -ushk-, -ishk-) 例：lis-ka “fox-Dim”, lisi-chka “fox-Dim”, lis-yonka	-ts, -k (-yshk-, ushk-, echk-) 例：okon-tse, oko-shko “window-Dim”, soln-yshko “sun-Dim”

表1の中でも特に代表的な指小接尾辞は -ок, -ек, -ик, -чик, -чек, -ка, -коである。(7)を見てみよう。(8)は文中での使用例である。

(7)

-ок	ветер (風)	→ ветерок	(弱い風)
	[veter]	[veterok]	
	снег (雪)	→ снежок	(雪 + 愛情)
	[sneg]	[snejok]	
-ек	лист (紙)	→ листочек	(小さい紙)
	[list]	[listochek]	
-ик	шарф (スカーフ)	→ шарфик	(小さいスカーフ)
	[sharf]	[sharfik]	
-ка	кофта (ブラウス)	→ кофточка	(小さいブラウス)
	[kofta]	[koftochka]	
	минута (一分)	→ минутка, минуточка	(少々)
	[minuta]	[minutka, minutochka]	
-чик	колокол (鐘)	→ колокольчик	(小さい鐘)
	[kolokol]	[kolokolchik]	
-ко	молоко (牛乳)	→ молочко	(お乳)
	[moloko]	[molochko]	

(8) Родители купили участочек.

Roditeli kupili uchastochek.

Parents bought a plot (+Dim.).

両親は小さい畑を買いました。

しかし、当該の名詞の指示対象が「小さい」ことを示すことより、むしろそれに対する感情的な評価「かわいい」「愛らしい」といった「親愛の情」を示すために指小語を用いる場合が少なくない。その評価は(9)、(10)のように肯定的な場合もあれば、(11)のように否定的な場合もある。

(9) Я купила себе кофточку и сумочку.

Ya kupila sebe koftochku i sumochku.

I bought me a blouse (+Dim.) and a bag (+Dim.).

私は自分のためにブラウスと鞆を買ってきた。

(10) (子供に対して) Ножечки не устали?

Nozhechki ne ustali?

Dear-small-legs (+Dim.) are not tired?

あんよは疲れてない?

(11) Где это муженька носит?

Gde eto muzhenka nosit?

Where is husband (+Dim.) hanging around?

亭主はどこを、うろついているのだろう?

(7)、(8)、(9)、(10)と同系列の用法の一つとして、ロシア語では心を込めた温かいおもてなしは指小語を用いた表現を伴うことがある。料理は(12)のようにしばしば指小語の使用によって客に勧められる。

(12) Возьмите немного селёдочки! Обязательно!

Vozmite nemnogo selyodochki! Obyazatelno!

Take some dear-little-herring (+Dim)! You must!

もう少しお鯨をとってください！是非！

ロシア語では、依頼表現は命令法で表現されるのであるが、複数の指小語を用いることによって、依頼表現を和らげる効果がある(=13)。子供に対して依頼表現を用いる場合にも命令法を使う。その時にも、様々な(子供の名前などの)指小語の使用が和らげ効果をもたらす(=14)。

これらの例では、聞き手に対する呼びかけ表現 (addressing term) が指小語化していることに注意されたい。

(13) Димулечка, дай сигарету.

Dimulechka, dai sigaretu.

Dima(+Dim.+Dim), give me a cigarette!

ジムーレチカ、タバコを貸して！

(14) Васенька, съешь супчик!

Vasenka, syesh supchik!

Vasya(+dim), eat your soup (+Dim)!

ヴァーシェニカ、お汁を食べなさい！

ロシア語の指小語は改まった場面では用いられない。反対に、指小語の使用にふさわしいのは打ち解けた雰囲気の中で行われる日常会話である。そのような雰囲気を作り出すために指小語が用いられる場合が少なくない。指小語の使用が特徴となる発話としては、子供による発話、親しい人どうしの会話、子供やペットに関する発話、患者に対する医療関係者の発話などである。

一つのロシア語の名詞や形容詞に複数の指小語があり得るため、ロシア語の指小語の翻訳は容易ではない。例えば、一つの元の語 «Книга» ([kniga], 「本」) から以下(15)のようにいくつかの指小語が形成できる⁽⁶⁾。

(15)

книжка (with a nuance of scorn)

[knijka]

книжечка (diminutives expressing smallness and tenderness)

[knijechka]

книжонка (disparaging diminutive)

[knijonka]

книжоночка (with condescension)

[knijonochka]

книжица (with a nuance of irony and condescension)

[knijitza]

また、ロシア語の形容詞は品質の強化と優しさのニュアンスの程度が異なる二つか三つの指小形態を持つことができる。

- (16) красный (赤い) красненький, красноватый, краснёхонький
 [krasnyi] [krasnen'kii] [krasnovatyi] [krasnyohon'kii]

形容詞の指小接尾辞 «-еньк» は喜び、魅力、魅惑、同情、心配など、感情の広い範囲を表している。例えば、ロシア文学では、憐れみの感情は、しばしば、形容詞に付加された指小接尾辞 «-еньк» によって表現される。典型的な例は(17)である。

- (17) В общем сапожник запивал. Вот шел он пьяненький^{vii}...

V obshem sapojnik zapival. Vot shyol on p' yanen' kii...

It seemed the cobbler guzzled. He was walking along good and drunk (drunk+ Dim.)

多くの場合、(17)のように、ロシア文学の特徴の一つである憐れみ、思いやりの暖かさと同情とが混合した気持ちは、何かのトラブルや不幸についての明示的な言及がない文章でも、十分に表現され得る。しかし、英語の翻訳ではそのような意味や雰囲気失われている。

さらに、指小接尾辞の多様性はロシア語の特徴である。例えば、名詞から指小語を形成するために30以上の指小接尾辞があって、形容詞から指小語を形成するためには10の指小接尾辞がある。

ロシア語ではダブル指小語又はトリプル指小語が形成されることが可能である。以下の(18)には二つの指小接尾辞 (-он) や (-очк) の付加によって指小語が形成されている。

- (18) книжоночка 本 + Dim. + Dim.
 [knijonochka]

2. 指小語による形態学習得の促進

80以上の言語における指小語の意味論的な分析が子供の会話の中の指小語を中心に行われている (Jurafsky 1996)。Воейкова (2007) によると、一定の年齢未満の子供は、指小

接尾辞の付かない名詞から格変化をするのではなく、指小語としての形から格変化をする傾向があるとされる。

単語に指小接尾辞を付加して指小語を形成するのは、その単語の形態ステイタスが変化できることを意味する。それは、元の単語とその指小語形に適用する語形変化が一致しないことを示す。例として、名詞 «мышь» ([mysh], 鼠) 第3語形変化タイプ⁽⁸⁾の女性名詞を検討しよう。それは語尾が口蓋化子音である女性名詞の小さなクラスのみ使用される最も小さい語形変化の型である。その名詞の格変化⁽⁹⁾は次の通りである。主格は «мышь» [mysh]であり、生格・与格・前置格は «мышь» [myshi]で、造格は «мышью» [mysh'yu]である。その一方、その語の指小語 «мышка» ([myshka], 鼠+Dim.) は第2の語形変化タイプを使用している。その語形変化タイプはより頻繁に使われ、指小語の格変化は次の通りである。「мышки» [myshki] (生格)、「мышке» [myshke] (与格)、「мышку» [myshku] (対格)、「мышкой» [myshkoi] (造格)、「мышке» [myshke] (前置格)。この例に関して、注目したい点が2つである。①、指小語 «мышка» [myshka]の語尾はその指小語が女性名詞であることを明示している。ロシア語の名詞はどの性に属しているのかが語末の文字で決まっている。殆どの女性名詞の語末の文字は «а»[a] 又は «я»[ya]である。名詞の性はとても重要で、形容詞、代名詞と動詞過去形の性の一致⁽¹⁰⁾に必要である。②、指小語 «мышка» [myshka]に適用する格変化はロシア語の6つの格を明確に示し、名詞の統語上の役割を識別するのをより簡単にする。他方、元の語«мышь» [mysh]の格変化は複雑である。その語の3つの格(生格、与格、前置格)は同じ語尾を持ち、2つの格(主格と対格)も同じ語尾であり、造格のみが違う語尾 «ю» [yu]を持つ。そのために、ロシアの子供たちによる指小語の使用の高い頻度は、名詞・形容詞の性別や格変化の習得を促進することになるだろうと思われる。しかし、一方で、格変化の語尾の習得がある程度すすむと、指小語の使用頻度が下がっていくのも興味深い。

3. 和らげ表現としての指小語

ロシア語の指小語は丁寧さと和らげを表す表現手段としても用いられる。中尾(2002)によると指小接尾辞が表す「小さい」という意味を持つことによって、和らげ表現として相手への「負担」を減少するとされる。話し手が事物や人物、又は事象の大きさや程度を「小さい」と示すことが相手に対する丁寧な態度を示すことにつながる。相手のネガティブ・フェイス⁽¹¹⁾に配慮する表現の時も、相手に対する親近感の表現としてポジティブ・ポライトネスとして働くこともある。

次の(19)は、相手のミスについて言う場合、相手のポジティブ・フェイスに対する侵害を少なくするためのポジティブ・ポライトネスをも取ることができる。また、視点を変えて、相手のプライバシー魔寮と解釈すればネガティブ・ポライトネスとも取れる。

- (19) Кажется ошибочка вышла.
Kazhetsya oshibochka vyshla.
It seems mistake (+Dim.) happened.
多分、ちょっとした間違いが起きたらしい。

相手のフェイスを脅かしやすい発話である依頼の表現には指小語がよく使われる。

- (20) Передайте пожалуйста рыбку.
Peredaite pojaluista rybku.
Pass please fish (+Dim.)
お魚をとってくださいませんか。

- (21) Папироской не угостите?
Papiroskoi ne ugotite?
A cigarette(+Dim.) not will treat me?
タバコを一本貸してくださいませんか。

(20)と(21)では、指小語は相手の「負担」を軽減して、ネガティブ・フェイスに対する配慮を強調すると同時に、親しみを示す点においてポジティブ・フェイスに対して配慮していると言える。

次の例(22)は指小語接尾辞が持つ「小さい」という意味によって、話し手の控えめな態度が表現できる。飲食物を進める場面でよく見られる。相手に対する丁寧で親しみがある表現が使われる。

- (22) Отведайте чайку, салатик.
Otvedaite chaiku, salatiku.
Taste tea (+Dim.), salad (+Dim.)
お茶を飲み、お野菜を食べてください。

4. 敬語表現としての指小語

(23)、(24)のような指小語の使用例を見てみよう。ロシアではサービス業の従業員による客への発話の中で指小語がよく用いられる。これは敬意の表現である。相手に関係するものに肯定的な評価を与えることによって間接的に相手のポジティブ・フェイスを高めるのに役立つ。一方で、一般的に敬意表現は相手のネガティブ・フェイスに働きかけるストラテ

ジー⁽²⁾である。従って、指小語による敬意表現にも、他の敬意表現一般化同様にネガティブ・フェイスに対する配慮が存在すると考えられる。(23)、(24)このような発話は、相手との力関係を認める発話であることからネガティブ・フェイスを尊重する働きも持ち合わせていると言える(中尾2002, p. 89)。

- (23) (電話交換手) **Не вешайте трубочку. Подождите минуточку.**
Ne veshajte trubochku. Podozhdite minutochku.
Don't hang the receiver (+Dim.). Wait a minute (+Dim.).
受話器をおろさないで。少々お待ちください。
- (24) (列車の車掌) **Ваши билетики пожалуйста.**
Vashi biletiki pozhaluista.
Your tickets (+Dim.) please.
切符を拝見します。

下記の(25)、(26)が示すように、要求が含まれている命令文の中に使われる指小語はその要求の丁寧度を向上させる役割をする。

- (25) **Разрешите вопросик задать.**
Razreshite voprosik zadat.
Let me question (+Dim.) ask.
私に質問をさせて。
- (26) **Документик ваш предъявите.**
Dokumentik vash pred'yavite.
Document(+Dim.) your show.
あなたの身分証明書をみせて。

中尾(2002, p.88)は指小語が敬意表現として用いられている理由として、接尾辞を持つ「親愛の情」の意味が関与していると述べている。Лопатин(1987, p.146)は、話し手にとってある人物が愛しい、かわいらしい、魅力的だなどということを示したい場合、「Собственно ласкательность, указание на то, что говорящий собеседника любит, что собеседник ему мил, дорог либо просто симпатичен, приятен」[その人物と結びつく物や性質などにも指小・表愛接尾辞が用いられる]と指摘している。指小語接尾辞に

よって与えられたこのような肯定的な評価が間接的に相手自身を賞賛することになり、それが敬意表現としても捉えられるのである。

5. おわりに

現代ロシア語では、指小接尾辞を名詞、形容詞などの品詞¹⁰³の語幹に付加することによって指小語が形成される。生産的な接尾辞の種類が非常に多く、その結果、形成された指小語の使用頻度も極めて高い。日常の生活の様々な場面で指小語が使用されて、豊かな表現手段となっている。

指小語の使用は単に指示対象が小さいことや愛情の対象になることを指すだけではない。依頼・助言・忠告の場面における敬語表現、緩衝表現、そして親しみ表現としての使用も重要である。

指小語の豊富なシステムは、感情（特に愛情）が明白に表示される傾向にある文化において重要な役割を果たしている。会話の中での指小語の使用はスタイルや状況（家族の中の会話、子供、友人、恋人たちの会話など）に依存している。その他に、話し手の気分、会話の主題に対する話し手の態度や話し手の言葉で感情を表現できる話し手の能力にも依存するだろうと考えられる。

注

- (1) “Dim.”は“diminutive”（訳：指小語）の省略である。
- (2) ロシア語では「уменьшительно-ласкательные суффиксы」と呼ぶ。
- (3) ロシア語では「уменьшительно-уничижительные суффиксы」と呼ぶ。
- (4) 首相の公式サイトで会話の速記、<http://premier.gov.ru/events/news/17409/>
- (5) Protassova E., Voeikova M.D. (2007, p. 45)
- (6) Bratus (1969, p.6)
- (7) Solzhenitsyn A. (1968)
- (8) ロシア語では、名詞と、同じ文中の他の語との関係は、名詞そのものの語形変化によって示される。これを格変化と呼ぶ。各変化のタイプは3つある。
- (9) 同じクラスの名詞は「дверь」([dver']、ドアー)、<「печь」([pech']、暖炉)である。しかし、指小語の「дверка」([dverka]、ドアー+Dim.)、<「печка」([pechka]、暖炉+Dim.)はより頻繁に使われる。
- (10) gender agreement（「合意」ではなく、文法では「一致」と訳す。）
- (11) Brown and Levinson (1978) によるポライトネス理論の重要な概念はフェイスである。Brown and Levinsonによれば、フェイスは「自らについて望む自己イメージ」であって、人との係わり合いに関する基本的な欲求として、社会的存在である人間ならば誰でも持っている普遍的なものである。人間には、基本的な欲求として「ポジティブ・フェイス」と「ネガティブ・フェイス」という二種類のフェイスがあるとされる。「ポジティブ・フェイス」は「よく思われたい」「受け入れられたい」など、他人から評価されたい、理解されたい、ほめられたいなどという欲求であり、「ネガティブ・フェイス」は、「踏み込まれたくない」など、他人に邪魔されたくない、自己の領域に立ち入れられたくない、自己の行

動の自由を守りたいという欲求である。

(12) 「ストラテジー」は「方略」の意味で、詳細はBrown and Levinson (1978) を参照。

(13) 例(6)を参照。

参考文献

- 中尾裕子 (2002) 「丁寧さを表す手段としての指小語接尾辞の使用」『ロシア語ロシア文学研究』34号、83~91頁 (日本ロシア文学会)。
- 南不二男 (1999) 『敬語』東京：岩波新書。
- Bratus, B.V. (1969) *The Formation and Expressive Use of Diminutives*. Cambridge: Cambridge University.
- Brown, P. and S.C. Levinson (1978) *Politeness: Some Universals in Language Usage*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Jurafsky, D. (1996) "Universal tendencies in the semantics of the diminutive", *Language* 72, pp. 533-578.
- Kempe, V., Brooks P.J. and S. Gillis (2007) "Diminutives provide multiple benefits for language acquisition", *The acquisition of diminutives: A cross-linguistic perspective*, Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins, pp. 319-342.
- Protassova, E. and M.D. Voeikova (2007) "Diminutives in Russian at the early stage of acquisition", *The acquisition of diminutives: A cross-linguistic perspective*, Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins, pp. 43-72.
- Solzhenitsyn, A. (1968) *The Cancer Ward*, Rebecca Frank, transl. New York: Dial Press.
- Wierzbicka, A. (1985) "Different cultures, different languages, different speech acts : Polish vs. English", *Journal of Pragmatics* 9, 2, pp. 145-178.
- Вежбицкая, А. (1996) "Русский язык", *Язык. Культура. Познание*, – Москва.: Русские словари, С.33-88.
- Виноградов, В.В. (1947) *Русский язык: грамматическое учение о слове*, – Москва.
- Воейкова, М.Д. (2007) "Грамматические функции диминутов (ранние этапы)", *Проблемы онтолингвистики* . – Санкт-Петербург: Златоуст. С. 35-38.
- Лопатин, В.В (1987) "Словообразовательные средства субъективно оценочной прагматики высказывания и текста", *Русский язык* , Наука, Москва.